

会務月報

第494号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■第13回 業務開発専門委員会 議事概要

日時 令和6年4月24日(水) 14:00~15:40

会場 日事連会議室

出席者 委員長 内田 要

委員 安藤正道、千鳥義典、富樫 亮、本間裕之、大村 修

欠席者 委員 加藤 彰、安藤春久

事務局 居谷、野出、千浜

{配付資料}

第12回業務開発専門委員会議事概要

資料1 業務開発専門委員会提言(案) —ネットワーク提言

議 事

1. 業務開発専門委員会としての提言(案)の作成について

○業務開発専門委員会の提言(案)について資料1により内田委員長により説明された。

主な内容は以下の通り。

- ・ネットワークについての提言としてまとめた。追加・修正を行って完成させる予定。
- ・必要性、ビジョン及び工程、今後の展開に分けてまとめた。

必要性・・協力事務所マッチングサービスは意匠・構造・設備・監理等の人員不足対策として効果的。会員同士の自由な交流、協会の魅力が増して会員増強の一助となる。

ビジョン及び工程・・今後3年間で全国的なネットワークが可能な環境を構築。日事連が構築することに意味。

ネットワークWGを各单位会に設置、日事連では各ブロックの代表者を結集してWGを日事連内に設置。日事連WGはトラブル防止を目的とした運用ガイドラインを制定。

今後の展開・・設備、構造、積算の各協会との協議会を設けるほか、消費者保護にまでつなげる。

○次のような意見交換を行った。

【WGについて】

- ・工程としては次の3年間で次のWGがつくっていくことになるか。1年目をもう少し具体的にしていただければスムーズではないか。
- ・次はこういうWGを立ち上げてということも提言すべきではないか。
- ・この委員会は業務開発、建築士の業務を開発していこうというところから始まった。前回の委員長がネットワークということに注目したので、提言をするにあたって経緯を前に書いたほうがいい。新しい仕事を探す前に我々自身ネットワークをしっかりと作ることが大事。

WGのミッションとしては、東京会のシステムが6月から稼働、それを日事連のガイドラインにどう取り入れていくか。単位会にWGのお願いをするよりまず日事連のWGが先ではないか。

少し細かい話となるが、今後の展開として設備、構造、積算はよいが、BIM設計に対応するシステムはこれからののでまずはネットワークをつくるのが大事でBIMについてはまた別の話としたほうがよい。

- ・日事連の中にWGをつくる場合、どのようにつくるのか。業務開発専門委員会の中につくるのか。
- ・日事連がWGをつくるときにどのように作るかについてはよくわかっていない。今の委員会の中で趣旨をわかっている方に参加いただいて、具体的になってきたらネットワークに詳しい方に参加いただくか。
- ・日事連の外側につくると日事連に負担をかけずに自主性もでてくるが、まずは日事連内にWGを設置してということをして先にやっ払いこうということになるか。
- ・WGの話としては、ビジョン及び工程についての③を①の後につけたほうがわかりやすい。①のところで全国の単位会に導入を促進するのはマッチングサービスの導入ということではどうか。マッチングサービスを行うにはデータベースが必要。
- ・データベースを構築してマッチングサービスはその中の一つ。
- ・必要性についてのところでマッチングサービスの話が早々に出てくるので、そのつながりがネットワークの必要性の上位にこない。マッチングサービスが最初にきてしまうのはどうか。
- ・ネットワークについてはWGを設置してデータベースについては東京会のデータベースを基準としてつくる。

【データベースとネットワーク】

- ・データベースを持っていない単位会は東京会のものを基準としてもらえれば速い。すでに持っている単位会はそれをつなぐようなソフトを入れることなどが考えられる。
 - ・今までの流れでの私の認識ではデータベースには各会員のデータを入れようということであり、ネットワークにはネットワークに入りたい人が入ることではないかと思う。東京会のデータベースには会員がすべて入っているのか。
 - ・基本的には会員すべて入れている。
 - ・ネットワークが優先であるならば単位会はネットワークに載せる人のデータベースをつくれればよい。データベース化とネットワークを頭に並べる。
- 必要性のところではWGのやるべきものが見えない。来期に業務開発専門委員会がこのテーマをやらないのであればWGは必要。業務開発専門委員会でするのであればWGで何をやるかをもんでいただく。設備、構造をネットワークでつなげたいことがまず第一。他団体が乗ってくれるかどうかをヒアリングしないといけなないかと思う。
- ・データベースとネットワークは表裏一体と考えられる。データベースをつくったところ、マッチングサービスなどの付加価値がでてきた。そのあたりはセットで考えることが望ましい。
 - ・データベースを作るとして入力を単位会がやることになると、時間や費用がかかる。そのあたりも問題になってくるのではないか。
 - ・いろいろな問題があるが、最終的には各単位会がデータベースを入れるかどうか、ネットワークに入るかどうかにかかっている。時間的にはシステム導入とネットワークのダブルのWGにしないと3年以内は難しいかもしれない。各単位会で今後どうするか。

これまでの経過というと、業務開発専門委員会ではいろいろなことを取り上げていこうということになり、ネットワークの必要性を取り上げた。2年間活動してきて実際にやろうということになった。ネットワークのWGは別組織。日事連内にWGを設置して実務は各単位会でということを考えている。

その他の団体への波及はむずかしい。作る前に話をするか作ってから話をするか。設備、構造の団体でも業務開発専門委員会で具体的な話が進んでいることは知らない。まずこちらで川を渡ってみてあとから来る人をいかにフォローするかということになるか。

【今後の展開について】

- ・おそらく今回は提言を出して終わりになるかと思うが、今、委員会に参加しているのは6単位会であり、他の単位会では訳がわからないのではないかと。提言の最後にデータベース化をはかろうとすると東京会でこういう事例があり東京会のデータベースを使えば値段的にはこれくらいなどを盛り込めば、提言に対して各単位会が検討してみようかという気になるのではないかと。
- ・打ち上げ花火で終わるかどうかにについては、次の段階で日事連内にWGを立ち上げて細かい点を検討し、資料を出してもらい、各単位会の会長に宣言してもらおうということになるのではないかと。
- ・新潟県内の設備協会に入っている事務所は23しかない。非常に忙しく多くの仕事をかかえている。組合もあるがそこには設備業者が5,6社しかない。組合などに入ると忙しくなってしまうので入らないという状況がある。進め方としては今の提案でよいと思うが、会長に提言を提出してどう動かすかということについては、次期役員で進めていくことになるかと思う。
- ・日事連のWGをどうするかについてはわからないが、今の業務開発専門委員会の委員がやることではなくて、専門的な知識を持つ者が参加する形になるかと思う。
他の設備、構造事務所との連携については、東京会でマッチングサービスを始めるので、半年進めて他団体に声掛けをして他団体で試行的に始め、調整の上で全国的なものにしていく予定である。設備事務所協会とは調整を始めようとしている。
- ・提言はあまり長く書くと提言にならないが、なぜこのようなことを言い始めたかは追加したい。提言を実現していくということで次に進めたい。
- ・データベースとネットワークは別物という話もある。東京会のデータベースが進んでいるので全単位会の会長にデモをしてもらうことが考えられないか。皆さん、データベースはお金がかかると思っているかもしれないが、エクセルのデータを移行するような形でできるのか、東京会のデータベースをみていただくとイメージしやすいのではないかと。ネットワークは同意のもとで進めていく。進めるということを前提に全国の単位会会長、ブロックで東京会のシステムを皆で見てもらってはいかかがか。
- ・ネットワークは共通のシステムの中にピックアップされるデータが必要。東京会で前のデータを今のデータベースに移行したときは、もともとあったエクセルを今回のデータベースに移行したので簡単だった。手間がかかったのはエクセルのデータになっていなかった会員。ネットワーク化のメリットは、一つの単位会だけでは少ない。ネットワーク化すると、隣県、沖縄など地域の距離を超えることが可能となる。ネットワーク化はいろいろ可能性がある。
先ほどのデモの話、データベースそのものを説明するのは難しいが、これを使ってこういうこともできるということは見てもらえると思う。
- ・結論をいうとデータベースが無いことが後々足かせになるかということと、ネットワークの意味としては今まで考えられないような仕事の幅を実感できるということか。
- ・このシステムを今やらないと遅れるという言い方をするとそこで止まってしまう。あまり一斉にという言い方をしないほうが受け入れられやすい。

・3年間でどのくらいの参加があるか。正直半分いけば良い方ではないかと思うが、30%を超えれば動き出すという法則があるようなので、30%になるのが2年目かと考えている。そこを超えれば過去に戻ることはないと思う。お互い会員同士なのであまり変なことにはならないが、強制すると誤解を生むので表現は変えた方がよいかもしれない。

ビジョンの①と②は合体して③につなげるようにする。

・東京会のHPのアクセス数は、ページごとにチェックできる。アクセス数が多いのは「建築士事務所を探す」のページで、注文住宅を建てようとする消費者がいろいろ探している。今のシステムはデータベースの中でどのような情報を一般消費者に開示するかを決められる。ネットワークにどのような情報を開示するか決められるのがメリット。

【提言のあり方について】

・今の話を聞くと頭にネットワークの提言が来ているが、共通システムによるデータベースの構築を頭にした方がよいと思う。共通システムによるデータベース化。マッチングもできる。

・私もその方がよいと思う。データベース化とそれを活用したネットワークの構築のようなタイトルが良いか。

・前回の委員会の提言がネットワークにフィーチャーした。それを受けての提言。前段がいる。今、持っている会員情報をデータベース化する必要がある。ネットワークの前段となる情報が必要。2年間議論してきた者からすると、データ化→共有化→ネットワーク→1つのサービスとしてマッチングサービスがあるという流れとなる。それを前文で書く。

・ネットワークという言葉は念頭に置きたい。前文でそれを表現する。

・全単位会にまたがる話なので全国会長会議で報告し、次にどう進めるかということになる。役員も改選になるので、現会長に提言を返してもらい、それを新執行部へどうつないでいくか。具体的にどのような組織とするかは次の話。

【今後のスケジュール】

・5月7日に委員に配信、校正（5月10日締め切り）。

5月15日までに最終稿作成、5月17日に事務局へ送付。

5月21日の業務・技術委員会へ提出。

■第10回会誌編集専門委員会 議事概要

日 時 令和6年4月3日（水）14:00～15:42

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦

副委員長 宇塚幸生

委 員 田端友康、鈴鹿美穂、小泉 厚、齊藤滋史、福山雅也

オブザーバー (株)ジェイクリエイト 城市奈那、江島千鶴

事務局 居谷、前田、三浦、井上

欠席者 広報・渉外委員長 石井繁紀

<配付資料>

資料1：令和6年5月号台割

資料2-1：令和6年6月号台割

資料2-2：令和6年7月号台割

資料2-3：令和6年8月号台割

資料3-1：特集提案（能楽堂の現在）

資料3-2：特集提案（日本の伝統的集落、水辺の建築あるいは都市）

資料3-3：特集提案（高架下の秘めた魅力）

資料3-4：特集提案（建築士事務所のウェブ発信）

資料3-参考1：【分野別】特集一覧

資料3-参考2：【時系列】特集一覧

参考1：令和6年度 年間台割表

参考2：令和5年度 年間台割表

議 事

1. 直近の会誌（3月号・4月号）の掲載内容についての意見交換

会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<3月号>

◇特集 デジタルデザインが生み出す万博—2025年大阪・関西万博に向けて

- ・情報量が多く非常に読み応えのある内容で、万博への期待を高めるものであった。
- ・座談会は、設計当事者ならではの体験や、組織同士のコラボレーションといった貴重な話を知ることができ、もっと頁数をとってもよかったのではと思わせる内容だった。
- ・座談会の頁で参加者名が色分けされていたが、色が薄く発言箇所が分かりにくい参加者がいたため、色分けはしなくても良かった。
- ・シグネチャーパビリオンに各プロデューサーの顔写真も掲載されていると良かった。
- ・来年の特集では、特に個性的なパビリオンや、会場までのアクセスを紹介してほしい。

◇令和5年度日事連建築賞作品紹介

- ・寒冷地特有の事情が反映された建物で興味深かった。

◇続BIMで変わる、BIMで変える

- ・BIMのパース画像は精巧なため、P26写真7など、実写写真との区別がつきにくいものがある。
→BIMと情報環境WGに申し送りし、今後は区別を明確にすることとした。

◇景観・まちづくりPREVIEW

- ・研究発表のようで、会誌に載せるには難しい内容だと感じた。

◇建築士事務所が知っておきたい法律知識

- ・普段と違うテイストで構成されており、読み物として非常に面白かった。

◇建築まちづくりNEWS

- ・直前の「景観・まちづくりPREVIEW」が難解であり、その後に業務報酬基準改定の長い解説文が続くと、読み物としてやや重たい印象を受けた。ただ、会誌で解説を行うのは良いことだと思う。

<4月号>

◇特集 子どもの遊び環境のデザイン

- ・カラフルな写真と豊富な事例が目を引き、訪れてみたいと思わせる内容だった。
- ・インタビューでは建築士以外の視点に触れることができ、新鮮だった。

- ・P4、P8では、写真の番号とキャプションが頁を跨って掲載されていたため、視線の移動が大きくなり、読みづらさを感じた。できるだけ近くに表記してほしい。

◇令和5年度日事連建築賞作品紹介

- ・建築作品を「村」のように作るという設計意図が写真からよく伝わってきた。
- ・屋根の構成が特長的な作品だと見受けられるので、屋根伏図も掲載されているとより良かった。
- ・巻頭から連続する3本の記事（特集、美術館・博物館巡り、作品紹介）が、「子ども」というテーマで統一されていたのが誌面構成として優れており、充実感があつた。

◇景観・まちづくりPREVIEW

- ・支部単位でこれほど大きな規模の活動をしているということに驚かされた。
- ・サイクリングルートマップによって、前号に掲載されていた万博の情報もよく理解することができた。

◇苦情解決事例紹介

- ・新しい気づきを与える内容ではなかった。特別な話題のときだけ掲載するのが適当なのでは。

2. 5月号の編集状況の報告

ジェイクリエイトおよび事務局より、5月号の編集状況について、台割案に基づき説明がなされた。（資料1）

◇特集 備える建築

- ・冒頭で、令和6年能登半島地震の被害状況や、東日本大震災との違いについて報告する。
- ・ライフライン途絶に備えた設備計画について、関東学院大学・大塚雅之教授にインタビューする。
- ・防災拠点となる建築の計画および防災拠点を含めた地域防災について、工学院大学・村上正浩教授にインタビューする。
- ・事例紹介は、川崎市新庁舎とかみす防災アリーナを取り上げる。
- ・阿南市庁舎も紹介予定だったが、阿南市の担当者から多忙による辞退連絡があつたため取り止めとなった。空き頁は川崎市新庁舎の頁を拡張して対応する。

◇その他の主な記事等

- ・「令和5年度日事連建築賞作品紹介」は、優秀賞を受賞した福島会・(株)はりゅうウッドスタジオが執筆する。
- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、新潟会・(株)堤建築設計事務所が執筆する。
- ・編集後記は、鈴鹿委員が執筆する。

3. 6月号以降の特集等の確認・検討

ジェイクリエイトおよび事務局より、6～8月号について、台割案に基づき説明がなされた。（資料2-1～3）

<6月号>

◇特集1 まちに開かれた金融機関

- ・事例紹介予定の城南信用金庫高円寺支店を設計した(株)佐藤総合計画に取材依頼したところ、特集テーマが事業者の理念に非常に合致することから、事業者または利用者の声も含んだ内容にできないかとの提案があつた。それを受け、事業者（および利用者）と設計者による「地域に根ざした金融機関の在り方」というテーマでの対談または座談会を企画している。
- ・事例紹介は、京都信用金庫QUESTION、福井銀行今立支店、愛媛銀行久米支店、高知銀行南支店を取り上げる。
- ・コラムは、スイーツバンク（浜松いわた信用金庫森田支店）とりそなコエドテラスを取り上げる。スイーツバンクは当初事例紹介予定だったが、設計した(株)日建設計より、当該建物は(有)春華堂の主導で設計され、その中

に金融機関が入居したものであるため、金融機関目線で記事を作成するのは難しい旨の連絡があった。そのため、コラムで触れる形とする。

◇特集2 全国大会（福井大会）

- ・2020年の記事をベースとした内容になる見込みである。

◇その他の主な記事等

- ・「令和5年度日事連建築賞作品紹介」は、優秀賞を受賞した東京会・(株)横井創馬建築設計事務所、佐瀬和穂建築設計事務所が執筆する。
- ・「景観・まちづくりPREVIEW」は休載する。
- ・編集後記は、田端委員が執筆する。

【意見】

- ・金融機関は利便性の高い立地であることが多いため、所在地の地図も掲載してほしい。
→ (ジェイクリエイト) 了解した。

<7月号>

◇特集 ホールは玉手箱

- ・「小劇場・小ホールが持つ豊かさ」について、名古屋大学・清水裕之名誉教授へ執筆またはインタビューを依頼する。
- ・事例紹介は、早稲田大学小劇場どらま館、THEATRE E9 KYOTO、女神の森セントラルガーデンを取り上げる。
- ・「魅力ある小劇場・小ホール」をテーマに、会員による投稿を募集する。

◇その他の主な記事等

- ・「令和5年度日事連建築賞作品紹介」は、優秀賞を受賞した東京会・(株)大林組が執筆する。
- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、兵庫会・(株)東影建築設計事務所が執筆する。
- ・編集後記は、福山委員が執筆する。

【意見】

- ・特集の会員投稿が集まらない場合に備え、委員は自身が執筆する準備をしておいた方がよい。

<8月号>

◇特集 未定（議事4で検討する）

◇その他の主な記事等

- ・本年は日事連役員の改選年にあたるため、令和6・7年度役員紹介を掲載する。

4. 特集の提案について

各委員より、特集の提案について説明がなされた。（資料3-1～4）

<能楽堂の現在> 提案者：宇塚副委員長

- ・国立能楽堂だけでなく、宝生能楽堂や観世能楽堂等、各地の常設能楽堂を特集する。
- ・能の歴史等の総論は、研究者または（公社）能楽協会に依頼する。

【意見】

- ・7月号「ホールは玉手箱」と差別化する意味でも、能に絞った特集とし、建物だけでなく、能の歴史や所作の解説も掲載しては。
- ・掲載時期は年末年始の頃が相応しいと思う。

<日本の伝統的集落> 提案：福山委員

- ・昔の暮らしを今に伝える伝統的な集落を特集する。過去に重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）を特集したが、立地、気候、風土等の条件から自然発生したような集落、知名度があまり高くないような集落を取り上げることで、重伝建と差別化したい。

- ・事例紹介は、岐阜県白川郷、京都府伊根町の舟屋の町並み、愛媛県の外泊石垣の里などを想定。

【意見】

- ・重伝建との差別化のためには、切り口を再考して、もう少し具体的にする必要がある。

<水辺の建築あるいは都市> 提案：福山委員

- ・海外の水辺の建築あるいは都市を紹介する。

- ・海、川や運河とどのように関わりながら暮らしているか、また、水辺ならではの問題点についても解説する。

- ・事例紹介は、ベトナム、ヴェネチア、オランダの諸都市などを想定。

【意見】

- ・以前同様の特集を企画した折、洪水被害が発生し延期したことがあるが、企画する分には問題はないと思う。

- ・柳川市、伊根町など日本の水辺の事例も取り上げては。

- ・海外は観光資源として「水都」を上手くアピールしている。日本と比較しても面白いのでは。

<高架下の秘めた魅力> 提案：小泉委員

- ・以前は飲み屋街や駐輪場という固定的なイメージがあったが、最近活用方法が多様化し、新たな魅力の発信地となっている高架下を特集する。

- ・専門家や鉄道会社の企画室にインタビューを行い、法制度についても解説する。

- ・事例紹介は、神田万世橋、有楽町-新橋エリアなどが考えられる。鉄道だけでなく高速道路の高架下も対象にする。

【意見】

- ・建築物に限らず、「高架下の有効利用」というテーマで広く事例を集めてはどうか。

- ・武庫川女子大学が、鳴尾・武庫川女子大前駅の高架下空間にステーションキャンパスを開設した。

<建築士事務所のウェブ発信> 提案：ジェイクリエイト

- ・デジタルマーケティングの重要性が年々増す中、建築士事務所はどのようにウェブ発信していくべきかを、専門家や実践している事務所への取材を通して解説する。

- ・「ウェブ発信の原則と適切なツール選び」をテーマに、architecturephoto.net主催の後藤連平氏にインタビューする。または座談会としても良いと考えている。

- ・ウェブ発信実践例として、ALTS DESIGN OFFICE（滋賀会）や(株)西和人一級建築士事務所（石川会）を取材する。

【意見】

- ・読者のニーズが高いテーマであるが、建物があまり掲載できなさそうで、誌面構成は難しそうである。

- ・事例紹介は、誌面上だけで紹介するのではなく、たとえばQRコードを読み取れば発信内容（ウェブコンテンツ）にアクセスできるなどの、誌面とウェブを一体化させるような工夫ができると良いと思う。

- ・単体会の中にも実践例があるかもしれないので、取材・紹介してもらいたい。

- ・事例は建築関係に限定する必要はない。読者が幅広い事例からヒントを得られるような構成にした方が良い。

- ・特定の事務所等の宣伝にならないよう、事例は多い方が望ましい。

- ・このテーマを突き詰めるとDX化の話に発展する。せつかくならそこまで言及した内容にしては。

- ・参考情報として、建築関係のYouTubeチャンネルを掲載するのはどうか。

検討の結果、今後の特集スケジュール案を次の通りとし、次期委員会に引き継ぐこととした。

[スケジュール案]

8月号：高架下の秘めた魅力

9月号：水辺の建築あるいは都市

10月号：日事連建築賞

11月号：建築士事務所のウェブ発信

12月号：能楽堂の現在

1月号：全国大会

また、8月号の編集後記は小泉委員が執筆することとした。

5. その他

次回委員会：6月4日（火）10：00～12：00

■主な行事予定

令和6年

5月16日 法制度対応特別委員会

20日 総務・財務委員会

21日 会員サービス検討WG

業務・技術委員会

24日 監査会

27日 青年部会連絡会議

28日 構造技術専門委員会

29日 BIMと情報環境WG

30日 正副会長会

常任理事会

31日 教育・情報委員会

6月 4日 会誌編集専門委員会

6日 日事政研究役員会

理事会

14日 建築賞選考委員会

令和6年4月末 会員・構成員異動報告等

1. 期間 令和6年4月1日～4月30日
 2. 会員在籍 正会員 47団体 構成員 14,195事務所
 賛助会員 10社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	+ 1	944	4,105	23.0%		292	30.9%
青森		162	880	18.4%	+ 1	45	27.8%
岩手	+ 1	275	903	30.5%	+ 3	81	29.5%
宮城		320	1,796	17.8%	+ 2	90	28.1%
秋田	△ 1	135	972	13.9%		49	36.3%
山形		212	1,064	19.9%		60	28.3%
福島		229	1,414	16.2%		71	31.0%
茨城		427	1,807	23.6%	+ 1	150	35.1%
栃木	+ 1	164	1,273	12.9%		79	48.2%
群馬		186	1,612	11.5%		90	48.4%
埼玉	+ 1	435	4,410	9.9%		138	31.7%
千葉		334	3,200	10.4%	+ 1	115	34.4%
東京	+ 10	1,615	14,325	11.3%	+ 2	640	39.6%
神奈川		743	5,719	13.0%	+ 1	249	33.5%
新潟	+ 1	296	2,139	13.8%		131	44.3%
長野		376	1,988	18.9%		104	27.7%
山梨	+ 1	105	778	13.5%		13	12.4%
富山		293	1,110	26.4%		66	22.5%
石川		322	1,201	26.8%	+ 1	69	21.4%
福井		196	906	21.6%		55	28.1%
岐阜		108	1,322	8.2%		38	35.2%
静岡	+ 1	375	2,947	12.7%		126	33.6%
愛知	+ 2	499	4,886	10.2%	+ 2	144	28.9%
三重		179	1,149	15.6%		64	35.8%
滋賀		179	1,092	16.4%	+ 1	43	24.0%
京都		357	2,079	17.2%		109	30.5%
大阪		794	6,201	12.8%		251	31.6%
兵庫	+ 2	348	3,074	11.3%	+ 1	99	28.4%
奈良		102	905	11.3%		25	24.5%
和歌山		104	714	14.6%		24	23.1%
鳥取	+ 1	117	467	25.1%		54	46.2%
島根	+ 1	117	611	19.1%		54	46.2%
岡山		371	1,389	26.7%		71	19.1%
広島	△ 1	339	2,176	15.6%		153	45.1%
山口		108	965	11.2%		39	36.1%
徳島	△ 1	106	708	15.0%		20	18.9%
香川	+ 1	88	1,011	8.7%		21	23.9%
愛媛		196	1,148	17.1%	+ 2	56	28.6%
高知		137	617	22.2%		37	27.0%
福岡		464	3,193	14.5%		186	40.1%
佐賀	+ 1	175	508	34.4%		46	26.3%
長崎		227	761	29.8%		45	19.8%
熊本		226	1,367	16.5%		99	43.8%
大分		149	804	18.5%		49	32.9%
宮崎		107	1,010	10.6%		45	42.1%
鹿児島		274	965	28.4%		86	31.4%
沖縄		180	1,279	14.1%		68	37.8%
計	+ 22	14,195	94,950	14.9%	+ 18	4,639	32.7%

※建築士事務所登録数(B)は令和5年4月1日時点の数字である。